大人も読みたい児童書

『綱渡りの男』 モーディカイ・ガースティン／著 川本 三郎／訳 小峰書店 E

1974年のニューヨーク。フランス人の大道芸人フィリップは数人の友人とともに、ワールドトレードセンターのツインタワー（高さ約400メートル、地上110階）の間にロープを張り、命綱なしで綱渡りをするという驚きの計画を立てます。この絵本は実話をもとに作られました。上空からの視点で描かれた絵に、まるで自分も綱渡りをしているかのような感覚を味わえます。

【1F 絵本室にあります】

『つづきの図書館』 柏葉 幸子／作 山本 容子／画 講談社 913カ

「つづきが知りたい」と新米司書の桃さんに頼んできたのは、なんと絵本から抜け出してきた登場人物たち。しかも知りたいのは本のつづきではなく、本を読んでくれた人のつづきだと言います。40過ぎという児童書には珍しい年齢の主人公で、ファンタジーなできごとが起こる反面、彼女が抱えている孤独や事情はリアルです。そんな桃さんが不思議な出会いによって徐々に変わっていく様は読みごたえがあり、ラストには思わずホロリとします。

【1F 児童室にあります】

『わすれられないおくりもの』 スーザン・バーレイ／さく・え 小川 仁央／やく 評論社 E

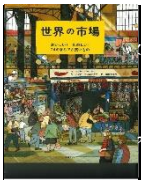
秋の終わりに森のみんなから慕われていたアナグマが亡くなりました。長い冬をこえて悲しみにくれるみんなは、春になりアナグマが残してくれたものについて語り合います。そして、アナグマからひとりひとりに贈り物をもらっていた事に気づきます。大切な人の「死」は残されたものの「生き方」を静かに教えてくれます。 【1F 絵本室にあります】

『ロドリゴ・ラウバインと従者クニルプス』 ミヒャエル・エンデ、ヴィーラント・フロイント／作 木本 栄／訳 junaida／絵 小学館 943エ

暗黒の中世のまっただなかの真夜中、ひとりの少年が人形劇団の馬車から姿を消します。彼が向かった先は、誰もが恐れる盗賊騎士、ロドリゴ・ラウバインの城でした。

エンデが未完のまま遺した物語が、新たな書き手を得て動き出します。個性的な登場人物たちが次々に現れては交錯して錯綜し、そして最後は大団円へ。junaidaによる挿絵も美しく、物語を贅沢に味わうことができる1冊です。 【1F 児童室にあります】

『世界の市場』 マリヤ・バーハレワ／文 アンナ・デスニツカヤ／絵 岡根谷 実里／訳 河出書房新社 675ハ



大昔から、ものの売り買いの歴史とともにある市場は、今も生活の大切な一部です。この本では、世界の市場24か所を詳しく紹介します。

各市場の場所や開いている時間、よく売られているものや、それらを使った料理など楽しい情報がいっぱいです。市場の活気が伝わってくるイラストからは、世界旅行の気分が味わえます。

【1F 児童室にあります】